

定例教育委員会会議録

平成29年3月28日

境港市教育委員会（平成29年3月28日委員会会議録）

招集年月日 平成29年3月28日 15時30分

招集場所 市役所第一会議室

開 会 15時30分 教育長宣言

出席委員 ① 松本 敏浩 ② 谷田 真基
③ 酒井 伊津子 ⑤ 徳永 由樹
⑥ 赤石 有平

教育長から説明のため出席を求められた者

教育委員会事務局参事 川 端 豊
教育委員会事務局長 藤 川 順 一
学校教育課長 影 本 純
学校教育課補佐 高 濱 禎 彦
学校教育課補佐 門 脇 克 美
生涯学習課長 黒 崎 享
教育総務課補佐 松 本 昭 児
教育総務課係長 北 野 瑞 拡

傍聴者数 なし

会議書記 教育総務課係長 北 野 瑞 拡

提出議案 議案第2号 平成29年度学校教職員の研修方針について
議案第3号 平成29年度境港市学校教育推進の重点に
ついて
議案第4号 鳥取県西部地区教科用図書採択協議会の
設置について
議案第5号 境港市公民館運営審議会委員の委嘱に
ついて

協議事項 3月定例市議会教育委員会関係質問答弁について
その他

報告事項 3月の行事報告、4月の行事予定など

【1. 開会】

○松本教育長 それでは、ただいまから3月の定例教育委員会を始めます。

【2. 前回議事録承認】

【3. 議事】

○松本教育長 議案第2号、平成29年度学校教職員の研修方針について説明をお願いします。

○学校教育課長 議案第2号、平成29年度学校教職員の研修方針についてでございます。これは地方教育行政の組織及び運営に関する法律第21条の規定により、学校教職員の研修方針を定めるということでございます。既にお配りしております表が年間の予定でございます。昨年度と特に変わったところは、学校教職員指導力向上推進事業の予算がつきました関係で、5月の管理職研修「学校組織マネジメント」の研修、7月に学級経営研修、中堅教員研修会「これからの学校リーダーの養成」、8月に中堅教員研修会、12月に学級経営研修というところで、若手を中心にした研修を2回、中堅、ミドルリーダーにかかるところの研修を2回、管理職の研修を1回、これを特に外部の講師、指導者をお呼びして行う研修という形で、今年は計画を組ませていただきました。それ以外にも新たに組み込んでいる研修もございまして、5月に教務主任・研究主任合同研修会というのを今年はおおうと考えております。

これは特に学力向上、それから学習指導に向けたこれからの教育を睨みながら、境港市の学力を上げていくことに関しての合同研修会を行っていききたいということを考えています。それから6月の方に今までは教育法規研修会という形で行っていたものを教頭研修会という形で、特に学校評価でありますとか、或いは教職員の服務等について研修を深めていきたい。今回昇任された教頭先生も新たにいらっしゃいますので、そういうところも含めた研修になればというように考えています。後につきましては従前から行っていたものでございますので、そういうものも昨年度の研修の反省を生かしながら、年間充実した研修が出来ればと考えております。

○松本教育長 ただ今、29年度の境港市の教職員の研修のスケジュールについて提案をさせていただきました。何かご質問等ございますでしょうか。

○谷田委員 2020年度の小学校の英語の教科化を見据えて今の内から段階的に、計画的に英語の研修を入れる必要があるのではないかなと思うのですが、その点はいかがでしょう。

○学校教育課長 これにつきましては、4月1日より学校教育課の指導係に、築谷健作教諭、今三中の英語教諭に入っただいで、英語の学習について直接的に指導していく、そういう人材を事務局に配置するという形にしました。小学校の英語の推進につきましては、各学校の研修会に直接指導主事を派遣してやっていくという形をとっていきたいと考えておりますし、また時間外になりますが、有志で英語のセミナーとかを開いて、参加していただいてやっていくようなことも考えていますので、公のところの研修にはならないかもしれませんが、個別の学校にどんどん入って行って、指導していくというように考えております。

○松本教育長

今ご指摘の部分は非常に大切な部分で、小学校の先生方もそのところを非常に心配しております。本来でしたら県の教育委員会が計画的に全部の小学校の先生を対象に研修をしていくべきだと思うのですが、中々県の動きが見えてきていません。ですから境港市独自に、先ほど課長が申しましたようなプランをやって行きたいと思っております。カチツとした研修にはなっていませんが、小学校の先生方が気軽に参加できるような研修会、その中で我々が持っている人材、例えばALT等、そういった方のボランティア的な参加がいただければ、充実した研修もできるかなという風に思っておりますので、工夫しながらやっていきたいと思っております。

○酒井委員

このスケジュールの中には入らないと思うのですが、教職員研修ということで1点。来年度からコミュニティ・スクールを年次的に導入するというので、コミュニティ・スクールを導入するにあたっては市全体で取り組むということですので、市教委主催で管理職だけでなく、全教職員の研修が必要ではないかと思えます。やはり共通理解を全職員で図った方が成果も大きいと思えますし、学校差ですとか個人差の理解度もあると思えますので、是非全教職員対象ということでお願いできればと思っております。

○学校教育課長

これにつきましては、一中校区の方で始まって行って、研修会を開催しますが、そこで全国レベルのコミュニティ・スクール・マイスターという方をお招きして研修することになると思えます。その時には全教職員に案内をかけて、なるべくたくさん来ていただいて、早くからそういうことを知ってもらうような形を取ろうかなと考えております。一中校区を対象ですけれども、他の校区からもきていただいて、沢山参加してもらえるような形では開催したいと思っております。

○松本教育長

南部町の教育長さんが全国から認定されたマイスターでして、非常に優秀な指導者ということで、金が掛からないような形で研修会が出来ればいいと思います。

その他、ご質問等はございませんでしょうか。(なし)
それでは議案第2号については承認といたします。

それでは続きまして、議案第3号、平成29年度境港市学校教育推進の重点について説明をお願いします。

○学校教育課長

議案第3号、平成29年度境港市学校教育推進の重点についてでございます。お配りしております1枚の方に重点をまとめさせていただきました。今年度と違うところを中心にお話をしたいと思っております。まず「めざす子ども像」につきまして、2行目の「夢や希望を持ち、これからの社会を切り拓いていく子ども」というところを少し変えております。今年度は「夢や希望を持ち、よりよく生きようとする子ども」でしたが、「これからの社会を切り拓いていく」という言葉に少し変えさせていただきました。これはこれからの新学習指導要領、社会に拓かれた教育課程ということもございますので、社会との関わりの中で自ら、それから社会をも切り拓いて行ける、そういう人材を育てたいと考えました。次の「平成29年度の重点」につきまして、今年度は「小中学校一体となって9年間で教育目標を達成しよう」ということでしたが、2つに分けさせていただきました。1つは「学校と地域の連携・協働を推進する」ということでございます。これはコミュニティ・スクールも取り掛かっていくということですので、学校と地域の連携推進ということでございます。それから小中連携につきましては、「小中連携をより一層深め、小中一貫型教育を推進し」という形で、今年度よりもちょっと前に進める、そういう文言に変えておりますので、より一層小中連携、それから一貫型の連携した教育を進めて行くというような形をちょっと強く押し出したいと考えております。それから4つの項目につきましては、今年度と同じ内容で、4つの大きな項目を作りました。まず最初の項目「すべて

の子どもたちの命と身体、人権を守る学校づくり」の中
では特に人権問題につきましては3番目、子どもが主体的
に学ぶ人権学習を推進していきたいということと、4
番目の特別支援教育につきましては、「特別支援教育の
理解の推進と、具体的な支援ができる学校体制づくり」、
この部分は今年度よりも少し詳しく書かせていただきました。
「特別支援教育の理解」というのは子どもに対する
だけではなくて、地域、保護者の方へも理解をもらえ
るような、そういう推進というように捉えていただけれ
ばと思っております。それから2つ目の項目「すべての
子どもたちが、希望と喜びを持って通学できる学校づく
り」では、まず最初のところの「子どもたち一人ひと
りが認められ、共に高まりあおうとする学級づくり・授
業づくり」、この部分は今年度よりも文言を変えて、ま
ず子どもたちが認められる仲間づくり、それから共に高
まりあおうとする学級づくりやそれから授業づくりとい
うような形を推進していきたいと考えております。それ
から3つ目の項目「すべての子どもたちに、夢の実現に
つなげる学力をつける学校づくり」につきましては、当
然小中連携をして学力向上に取り組んでいただくと同時
に、2番目の「学習のねらいを明確にし、児童生徒が主
体的に深く学ぶ授業づくり」という形で、次に改定され
る新学習指導要領のアクティブラーニング、主体的、
対話的、深い学びというところに近付いて行ける、そ
ういう授業づくりを推進するということを少し文言を変
えております。それから4つ目の項目「すべての子ども
たちに豊かな心を育む家庭・地域・学校づくり」にお
きましては、特に学校、地域、家庭、これの連携とい
うことになると、2番目の「9年間を見通した、生活
科・総合的な学習の時間の学習計画づくり」、このと
ころが十分見直されて、小中繋がっていくと非常に
いい形で連携、地域連携、そういう学習もそこに入
ってくるのではないかなという具合に思っております。
それから4番目の積極的な学校開放、地域に開かれ
た学校づくりを推進していただきたいというように考
えているところです。特に今年

度と変わった、或いは重視した点を述べさせていただきました。それ以外のところはほぼ大体今年度と同じような内容で、引き続き頑張っ学校の方にも取り組んでいただきたいというところでございます。

○松本教育長 来年度の推進の重点でございます。ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

○赤石委員 読ませていただいて非常に立派な推進の重点でして、会社で言えば今年の経営方針とか経営企画とかにあたるのもので、非常に内容的には異論はないですが、会社の場合はこれを作れば、毎月とか2ヶ月に1回とか検証が必要になります。そうするとこれだけの内容で、毎月なり、2ヶ月に1回でも検証するとなると本当に私は大変な作業ではないかと思ひます。会社ですと、作ったからには検証して、これはどうだったとか言わないと、作ったきりではどうしようもないものですから、これだけのボリューム、プラス従来の、これに書いていないこともたくさんあると思ひますので、どういふ検証をされるのかなということを読んでいて気になりました。私たちはすぐに成果とかに反映されているのか、検証してじゃあここはどうしようということを作った後にするのですが、この検証をどのように考えておられるのでしょうか。

○学校教育課長 この重点を今回の教育委員会の方で話をさせていただいて、30日に臨時校長会がござひます。ここでこの方針を示させていただきます。それで毎年、校長先生には「魅力あふれる学校づくり計画書」といふので、更にこれを基に各校長先生が各学校の課題を明確にしなごら、重点的な取組を更に絞って、その計画書を出していただきます。それを最後2月に振り返っていただいて、報告していただくという形で、これを基に更に各学校の課題を絞り込んだ計画書と評価を教育委員会としては求めます。更に多分学校ではその内容について色々な方法で校内での評価、或いは保護者に対する評価、そういうものを積み重

ねながらいわゆるP D C Aというサイクルを回しながら、こう検証していくというようなそういう落とし込みになってくると思いますので、これは少なくともちょっとやってもらいたいなというところですけども、学校によってはここはある程度できているから、もっとこっちの方に重点を置こうというところはこれから多分校長先生が見られて、それを基に各学校で検証もされていくという形になろうかと思います。

○赤石委員 と言うことは、検証というのは2月なら2月、年度末に1年間の評価を検証するということですか。

○学校教育課長 校内では学期ごとにやっております。1学期、2学期とやって最終的に、全体としてというような見方をしながら、どの学校も校内で評価をしております。

○赤石委員 先ほど言われた1学期、2学期、3学期に検証というのは計画を作る以上に大切なものですから、これだけのボリュームがあるものを大変だと思って、頑張っ検証の方をしていただければと思います。

○谷田委員 私も全体的な内容についてはすごくいいと思っております、ちょっと1点だけですね、少し具体的なところで、「すべての子どもたちに、夢の実現につながる学力をつける学校づくり」の中で、5つの項目が挙げられています。その中の3番目ですけど、「学習の評価と一人ひとりの課題を保護者と共有し、家庭学習を支援する取り組み」というところで、特に冒頭の学習の評価という点なんですけど、最近、自分も一保護者という立場で特に家庭教育とか家庭学習の重要性や必要性が今すごく言われていますので、ちょっと意識しているところがあって、その中の一つに学習の評価簿についてです。子どもが学期末に持って帰ってくる成績表を、子どもと一緒に見ながら分析と言いますか振り返りをして、どこが良かったとか悪かったとか、次の学期はどういう風にして行

こうとか目標を一緒に立てたりしています。その時に市内の小学校の中で3段階評価のところと5段階評価しているところとそれぞれありますが、私のところは3段階評価で成績をもらうのですが、やっぱりそういうことをやっていこうと思うと5段階評価の方が、より詳細に評価をつけていただいている方が現状把握はしやすいというところが改めて感じますし、子どもの反応を見ても、やっぱり3段階評価ですとちょっと頑張ったり、ちょっと怠けてもそんなに成績表が変わらないというところがありますので、5段階評価ですとちょっと頑張ると成績が1段上がるとか、ちょっと怠けたりすると1段階下がるとか、すぐに結果に繋がってくる部分がありますので、子どもたちの学習の取り組みに対する達成感だったり、或いは危機感であったり、そういったところはより5段階評価の方が掴みやすく、感じやすくなるのかなと思います。実際保護者の方でも5段階評価がいいという声はよく聞きますので、またご検討いただけたらなと思います。

○学校教育課長

現在、5段階評価を中学年から進めている学校もあります。昨年も校長先生のヒアリングを通じて、是非これは進めてほしいというように、前教育長と話を回っているところでした。いくつかの学校から既に実施されている学校に問い合わせをされて、どのようなやり方でやるのかとか、話をされている校長先生もありまして、検討の方はしていくという具合に応じていただいた校長先生も数おられましたので、今年度はなるべくそういうところで、細かな見取りをしながら、それがいい、悪いではなくて、やはり課題性を示す1つの尺度として、上手く運用していただければこういう5段階の評価、特に高学年については小中連携もありますので、そういうところは是非、校長先生方にしっかりと話をしていきたいというように考えております。

○松本教育長 大変貴重なご意見で、また学校の方にもそういった声があるということはきちっと伝えていきたいという風に思っています。

○酒井委員 先ほどと同じところですが、文言の部分で「学習の評価と一人ひとりの課題を保護者と共有し」ということですが、これは評価を保護者と共有するということでしょうか。評価と課題を共有するということですか。私が捉えたのは、「学習の評価の充実」と思ったりしたのですが、「学校側は評価を充実させる」と「一人ひとりの課題を保護者と共有」ではないかと思いますが、その辺りがわからなかったのと、もう1つ下の文で「小中連携、ALTの活用を通じた英語学習の充実、教員研修の充実」で3点挙がっているのですが、これは英語学習のことの小中連携、教員研修の充実ということなのか、別箇のものなのか、そのあたりはどうでしょうか。

○学校教育課長 「学習の評価と一人ひとりの課題」というのは、学習評価から見取れる一人ひとりの学習の課題という捉え方を私はしたので、おっしゃる通り、学習の評価の充実というところの方が学校の取り組みとしては必要かなというところも感じます。その辺は少し精査をしていきたいと思います。それから下のところは、英語の充実というところがメインですので、英語の充実をさせるためには小中連携やALTの活用、職員研修ということですので、そこは分かり易いような文章の手直しが必要かなと思います。「英語学習の充実に向けての小中連携、ALTの活用」というような順番をちょっと変えた表現の方が適切かなという具合に思いました。

○酒井委員 さっき評価のところでも谷田委員が言われたように、やっぱり評価の充実というところが大事だと思うので、そのところも付け加えていただければと思います。

○松本教育長

一番最後のところの真ん中の「積極的な学校開放、地域に開かれた学校づくりの推進」というところで、コミュニティは地域に開かれたという部分をもう1歩踏み込んで、地域と共に作る、地域と協働した学校づくりということを目指していかないといけないので、その辺りの文言をちょっと1歩進めていただきたいなという風に思います。

その他、ご質問等はございませんでしょうか。(なし)
それでは推進の重点について、ご意見いただいた部分をさらに修正をしながらということで、議案第3号については承認といたします。それではこういった重点を掲げて、境港市の教育を推進していきたいという風に考えています。

それでは続きまして、議案第4号、鳥取県西部地区教科用図書採択協議会の設置について説明をお願いします。

○学校教育課長

議案第4号、鳥取県西部地区教科用図書採択協議会の設置についてでございます。これは平成30年度から使用する小学校道徳科、特別な教科道徳の教科用図書の採択につきまして、義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第13条第4項の規定により、米子市、境港市、南部町、大山町、伯耆町、日吉津村、日南町、日野町、江府町の各市町村教育委員会は、鳥取県西部地区教科用図書採択協議会を次のとおり設置するという形で、この教科用図書採択協議会というものが設置されます。それに伴いまして、境港市より委員を選出する必要がありますので、採択協議会の委員に松本教育長を選出することとさせていただきます。それともう1つ、別紙の会則の方でございますが、この鳥取県西部地区教科用図書採択協議会の組織につきましては、各教育委員会から推薦の1名の委員の他に、委嘱される委員が西部地区の校長2名と保護者代表2名というのもございます。その中で、保護者代表の中の1名が境港市より選出されるということとさせていただきますが、これにつきましては、小学校のPTAの代表者を選出することになります。おそらくは小学

校のPTA連合会の方より選出していただくことになり
ますので、それについてもご了解いただきたいというこ
とでございますので、よろしくお願いいたします。

○松本教育長

ただ今の提案につきまして、ご質問等ございますでしょ
うか。（なし）それでは議案第4号については承認とい
たします。

それでは続きまして、議案第5号、境港市公民館運営
審議会委員の委嘱について説明をお願いします。

○生涯学習課長

議案第5号、境港市公民館運営審議会委員の委嘱につ
いてでございます。平成28年度からで任期が2年ですので、
任期途中ですけれど交代がっております。渡の方です
けれども、1番上の木下さんはPTA会長の交代による
もの、畑野さんの方については自治連枠で、副会長がさ
れていましたが、この度会長さんがされるということ、
松田さんについては公民館体育振興部というのがありま
してその会長さんが代わられたということで交代、渡
邊さんについては前任者が体調不良ということで渡邊さ
んの方に代わったということでございます。境公民館、
外江公民館については、PTA会長の交代によるもの、
上道、余子、誠道については校長先生の交代に伴って代
わるというもので、中浜については変更なしということ
でございます。任期途中ですので、前任者の残任期間と
いうことで平成30年3月31日までということございま
す。

○松本教育長

ただ今、提案がありました審議会委員につきまして、ご
質問等ございますでしょうか。（なし）それでは議案第
5号については承認といたします。

【4. 協議事項】

(1) 3月定例会市議会教育委員会関係質問答弁について

- 松本教育長 本日の協議は3月の定例会市議会教育委員会関係質問答弁について、事前に資料をお配りさせていただいておりますので、その内容について、委員の方から何かございましたらお願いいたします。
- 赤石委員 給食センターの外部委託の件について、後何年くらいというような計画が既にあるのでしょうか。あと時期というよりは外部委託というような動きがあるとするならば、私が思っているのはせっかく今地元の食材を使っているとか温かい給食が食べられるなどをアピールしている部分がありますので、そういうところが外部委託になってしまうと、例えば食材でも中々自由にならないケースも、境港市の特徴ある食材、魚とかできないのかなというところがあって、出来る限りせっかく作った給食センターを少しでも地元の方で作っていただければいいかなと、作った施設でもあるし、それをお願いしたいと思います。
- 教委事務局長 調理業務の一部を民間に委託するという方針ですが、調理員さんが、正職員の調理員さんは数少ないのですが、その中の2人が定年退職になるというところもありまして、1つの節目として平成31年以降という風に考えております。ただこれはまだ方針が固まったわけではありませんので、確定ではないです。ただ目標として思っているという範囲でご理解をいただければと思います。あと境港の食材を大切にしたいとご心配されていると思いますが、逆に反対でして、民間委託に代わっても食材の調達、献立、メニューの検討というのは市が必ず直接行いますので、業務が民間になったとしてもまるっきり変わることはないですし、今、栄養士さんたちが県の職員さんも合わせて4人いますが、その方たちが民間委託になるとある程度余裕も出てきますので、食育に力が入るというところが逆にありますので、民間委託をする

と食育、地元の食材というのは下がることはなく、逆に上向きに上がっていくと思っております。

○松本教育長

我々も業務の一部を民間委託するということについては、非常に危機意識を持ちながら、対応しないといけないと考えておまして、先ほどありましたように調理員さんの確保というのが非常に難しい時代に入ってまいりました。それは学校給食だけではなくて、市内の調理に関する、或いは食品に関するという人材が、非常に不足しているという情報を聞きまして、我々も公募をかけても中々人が集まってきていただけないという事態がございます。一方で正規の職員の方が定年を迎えるということになると、これからの子どもの食を担っていただける調理員さんの人材をいかに確保するか、それは大きな我々の課題になってくると考えております。そういった部分で民間の方に委託が出来た時には、もちろん現在の職員さんを希望される方は雇用していただくということも含めて協議をしないといけないわけですが、非常に弾力的な人材の投入と言いますか、例えば境港市が今日はこんな御馳走を計画しているという時には、他の職場から調理員さんの増員をかけられるとか、そういった弾力的な運用もしていただけるということもありまして、民間の魅力っていうのはあるなという風に思っております。

○赤石委員

教職員の研修会の年間スケジュールのところにもありましたけれど、「学級経営」、「学校経営」という言葉が今色々使われていますが、従来は「運営」という格好で「学級運営」、「学校運営」という言葉が、「経営」という言葉に変わって、私としてはどうしても「経営」という言葉から、辞書で見てもやっぱり利益を上げるとか、そういう部分も経営の部分、運営という言葉からはそういうのはないのですが、似たような言葉だけれども、「経営」と「運営」というのは調べてみるとやっぱりちよっと違うようだし、また自分自身が会社をやっていると「経営」というのは時には合理化とか効率とかそうい

うのを最優先で求めるようなケースだってあるように思っています。それで議会の答弁書の方には「学校運営規則」となっており、学校運営規則に則って運営をするみたいな言葉があります。僕らからすると「経営」というのは、学校経営というのは民間の私立の学校の場合はそういうのが出てもある意味いいのかなと思いますが、非常に「経営」というとさっき言った合理化とか効率とか最優先するケースというのが僕ら商売しているとあるので、昔はわざわざ「運営」だったと思いますけれど、あえて「経営」という言葉が使われるようになったのはなぜでしょうか。しかもさっき言ったように「学校運営規則」というのがちゃんとあるのに、わざわざ「学級経営」、「学校経営」というのを使っている意図みたいなのがわからないので、そういう言葉のニュアンスが、公立の学校の中で「経営」という言葉を使ってしまうとさっき言ったような合理化とか効率化みたいなのが最優先してされるような、学校の問題にしてもそういうのを合理化、効率化が最優先、それが優先になってしまうと非常におかしくなるのではないかと思います。なぜそのような言葉を使うようになったのかお聞かせください。

○学校教育課長

中々難しい問題ではあるかと思いますが、ただ言葉として「運営」、「経営」というものがものすごく区別されて使われているというわけでは一つはないと思いますけれども、「学校運営協議会」という言葉に使われたり、「学級経営」、「学校経営」ということも実際には学校現場では使っています。特に近年、結構「学校経営」とか「学級経営力」なんていうことは非常にクローズアップされますけれども、一つマネジメントの考え方がどんどん入ってきているということです。やはり学校も先ほどあったPDCAのサイクルでずっと回していったり、より効率的に目標を達成するためにそういう経営学の方針とかそういう部分も取り入れて行こうというようなことは、近年の学校経営という部分ではよく問われているところでもあります。より目標を明確にし、ビジョンを持

って、それを達成するためにということのいわゆる経営的な部分というの問われているということも多分あると思います。学級経営というのは我々も若い時は「学級経営計画」とかを立てていましたけれども、やはりどうしても目標を立ててそれにどうかということはずっと見て行かないといけないという考え方は、やはりマネジメントに繋がるものがあるので、恐らくそういう部分も含まっての「経営」という言葉も教育での使われ方というものもあるのかなという具合に感じますが、ものすごい厳密に「運営」と「経営」が分かれてというわけではなくて、その辺は多少重なり合いながら言葉の概念としてはあると思いますけれども、近年はマネジメントの考え方というのは非常に学校の中に入ってきているというのはございます。研修でも、今回管理職研修なんかでもそういうマネジメントというのは取り入れるのですが、そういうところは最近、大事にされている考え方なのかなというようには感じております。

○松本教育長

実は「経営」という言葉を意図的に国が使い始めたのは、いわゆる学校安全神話が打ち破られた。これは子どもたちのいじめによる自殺というものが起こったり、それから不登校が急激に増えたり、今までは学校に任せておけば教育はよかったというものが、子どもたちの減少の中で、本当に今学校はいいのか、安全なのかということ問われるような出来事がありました。平成12年ぐらいですけれど。この時に教育再生会議というのが、森首相の時に開かれまして、信頼できる、信頼感のある学校づくりというものをもう一度見直そうという動きがありました。この時に先ほど課長の方から説明がありましたように、きちっと目標を追っかけられる組織、目標管理のできる組織、つまりマネジメントが出来る組織、そういった組織に学校が変わって行かないといけないと、単に先生方の経験だけで、去年やったことを今年もやるような、そういった学校の運営ではこれからの社会に生きていく子どもたちは育てられない。そういったことからもう少

し経営という観点を強めて、学校を動かしていくという風な考え方に変わりました。学校組織マネジメントという考え方がドンと学校の中に入って来まして、そこからマネジメントですから「経営」という言葉になりました。だから完全に目標管理というようなニュアンスが強くなりました。ただお金という問題ではありませんので、ただ学校が目指す目標をきちっと意識をして、PDCAのサイクルを回しながら、先ほど話のありましたようにプラン、それから実践と評価をしながらアクションを起こしていくという、そういった経営方針が求められたということです。

○赤石委員 私も辞書で調べたのですが、むしろ「運営」の言葉の方が組織や人を動かし、上手く機能するようにするというように、「経営」という言葉より「運営」の言葉の方がきちっと入るような気がします。

○松本教育長 国の意識としては、学校は企業に習えという考え方がドンと教育界に入ってきましたので、こういう言葉に変わってきたと思います。

○谷田委員 非営利法人ですね、学校に限らず社会福祉法人とか公益法人とか、これ会計とかも一般の株式会社にどんどん近付いてきていて、要は理想だけで運営するのではなくて、その中に経営的な観点も取り入れてより効率的に、或いは経済性も加味した上で運営をしていきなさいという流れが全体的にあると思いますので、これはあくまでもベースは「運営」だと思います。「運営」の中に経営的な観点を取り入れてより効率的にやっていってくださいというような内容ではないかなと思いますので、あくまでもその部分の研修をやるということだと思います。

○赤石委員 内容として学校経営の研修というのは問題ないと思うのですが、さっき言ったように例えば学校の生徒が少ないという問題は、効率的に考えれば一気に併合みたいなそ

ういった流れになって地元の声が届かなくなってしまうような気がします。特に私学だったら経営的なことも必要になってくるでしょう。特色も出さないといけない。ただ効率化ばかり出てしまうと、生徒が少ない、じゃあ廃校だとそういう風に流れがなくなってしまうと、おかしくなってくる可能性があるということを危惧したものですから、非常に「経営」というのは私らの感覚からしたらちょっと向かない、馴染まないような気がしました。

○松本教育長

我々教育行政に携わる者としては、そのあたり踏ん張って行かないといけないところだと思いますけれど、本当に国の動きからするとそういった学校は統合してくださいと国ははっきり言います。もう物、人、金、この考え方を文科省なんかは言ってきます。そこに対してやはり地域の特色、地域の実情というものをしっかり見極めながら、どういう学校を作っていくのかというのは我々の仕事かなと思っています。

○赤石委員

言葉の使い方が私は大事な部分があるかなと思います。

○松本教育長

赤石委員がおっしゃられたそういった教育界に対する新しい、新しいと言うか「経営」というような部分が、ドンと求められている、そういった風潮になっていることは確かです。だから今までは色んな意味で学校も失敗をすることがたくさんあるわけですが、保護者の方や地域から応援をしていただくということは非常に多くありました。今はしっかりと批判をされると言いますか、説明責任というものが本当に強く求められるようになったなと思います。ここ15年間でガラッと変わってきたような気がします。

○赤石委員

交流センターについて、建った後に一番要になるのが人材というか、実際施設を管理する人というか、私は若いころに新しい施設を作ったことがあるのですが、本当に担当者の方がすごく頑張られて、それが非常に上手く行

ったケースがありまして、やっぱり人だなと、建物は立派な施設がもちろんこれからできるわけですけど、本当に要というのは人材が、担当者なのか館長さんなのかわかりませんが、人材っていうのがその施設が生きる死ぬではないですが、本当にそういうことがあったのを経験しているものですから、人選についてももちろん色々な考えを持っていらっしゃると思いますが、そのことが本当に大事なかなと思います。

○松本教育長

特に図書館でよく言われるのが、図書館は施設ではない、機能だと言われます。要するに図書館の持っている機能をいかに発揮できるかが、市民にとって使い勝手のいい図書館になると、立派な施設を作ればそれでいいということではないとよく言われます。まさに人ということかなと思います。このあたりで悩みもあるのですが、知恵を出しながらやって行きたいと思います。

その他、よろしいでしょうか。それでは協議の方は終了いたしまして、続いて報告事項の方に移りたいと思います。

【5. 報告事項】

《学校教育課長、生涯学習課長 各報告》

○松本教育長

ただいまの報告につきまして、何かご質問等ありましたらお願いします。（なし）その他、委員さんの方から何かありますのでしょうか。（なし）

【6. 閉会】

○松本教育長

それでは議題は終了しました。本日の定例委員会は閉会といたします。ありがとうございました。